

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立富山工業高等学校・教諭・飯島貴英
- 2 研修期間 令和元年9月15日(日)～令和元年9月23日(月) 9日間
- 3 調査研究課題 ドイツの学校等の視察による複線型教育制度と職業教育の在り方の調査研究
- 4 研修機関等 ドイツ：在デュッセルドルフ日本国総領事館、ザンクト・ペーター小学校
アルブレヒト・デューラー専門学校、ゾーリングン刃物博物館
デュモン・リンデマン共同基幹学校、デュッセルドルフ手工業会議所
Nessmann bad&heizung GmbH 社、ケルン大聖堂
ベルギー：EU本部
フランス：オルセー美術館、ルーブル美術館

5 研修の概要

(1) 在デュッセルドルフ日本国総領事館

磯正人総領事を表敬訪問し、ドイツ連邦共和国やノルトライン＝ヴェストファーレン(NRW)州、デュッセルドルフ市の社会情勢や教育事情等についてお話を伺った。ドイツは連邦共和国であり、教育は各州の主導により行われている。教育水準は高く、日本と同様に高校や大学への進学率が上昇してきている。NRW州はドイツ最大の経済州で、欧州の主要都市に行きやすいため日本企業が非常に多い。デュッセルドルフにも多くの日本企業があり、日本人学校では日本の教育水準と同等の教育がなされている。しかし、中学校卒業時には、インターナショナルスクールに進学するか、日本に帰国しないことを前提に現地校に進学するかの2つに選択肢が限られている。働き方への意識については、日本とは異なり、残業をほとんど行わずに限られた時間の中で仕事を行うという意識が高い。

(2) ザンクト・ペーター小学校

デュッセルドルフ市内で最も人口密接地域の一つであるフリードリヒシュタットに所在。6歳から10歳までの約200名の生徒が在学しており、1学年2クラスで構成されている。カトリック宗派の学校であるが、あらゆる文化・宗教を持つ生徒が歓迎・尊重されており、特定の宗教行為が強制されない。初等教育のベースとして、子どもたちが21世紀をどのような形で一生を送っていくのかというところを重視して指導が行われている。授業は、日本の一斉授業とは異なり、生徒が自分で学習を進めていく自立学習の形態で行われている。また、子どもたちの特性に応じた教育を施すという理念に則って、子どもの得意分野をさらに伸ばすような指導がなされている。難民の流入を背景に、まだドイツ語が話せない50人ほどの生徒のために、週10時間のドイツ語の補習講も行われている。卒業後は、進学校を旨としてギムナジウムに行く子は3割～4割程度で、それ以外の子の多くは職人を旨として職業訓練学校に進む。将来の進路の選択については家庭教育の役割とされている。

(3) アルブレヒト・デューラー専門学校

ノルトライン＝ヴェストファーレン州で最大の新築学校。87室の一般教室と75室の専門教室が配置されている。在籍生徒は約4,700名(うち、1,500名が毎日の授業に参加)で、通っている生徒の多くは、週に1・2回の登校で座学中心に基本的な知識や理論を学び、残りの3～4日は協力してくれる職人や企業の下で技術を身に付けるための訓練を行うという「デュアルシステム」で学んでいる。手工業、産業分野の38のパートナーと協力し、



①職業訓練前の準備コース、②職業訓練、③職業訓練後の専門技能の習得という3段階の学習過程を採用している。①では、難民やその他何らかの理由による義務教育未修了者等、様々な背景をもつ生徒に対し、職業訓練を受けるための準備として、基礎的な能力(ドイツ語能力等)の向上を目指す。②では、建築・建造、印刷・メディア、調理、造形、健康工学の5つの部門のコースが存在しており、この学校の中核となっている。③では、通常の職業訓練を修了した

後に、更なる専門技能を習得するため、座学あるいはフルタイムの職業訓練を受ける。教育上の理念として、「青少年の自立と自己責任能力の促進」、「社会的に責任ある人間になるための道徳的価値観の伝授」の2点を掲げている。

(4) デュモン・リンデマン共同基幹学校

基幹学校とは、10歳から16歳までの子どもが学び、最終的には職に就くことを目的としている。そのため、学校在学中に職業研修を受けている。多くの生徒は卒業後に職業訓練学校へ進学する。つまり、職業訓練学校へ行く準備をするための学校としての役割を担っている。生徒数約530名で、その80%が移民家庭出身であり、国籍は20カ国に上る。生徒の半数以上がイスラム教であるため、ドイツ語を話せない子どもたちには、2年間ドイツ語を学ぶことができる補習プログラム等が行われている。通常の授業の他に職業研修に対して手厚いサポートが行われており、校外の協力機関と連携して、進路指導や職業訓練等に進む生徒へ段階的なカリキュラムを組みサポートを行っている。8年生から『職業選択パス』という記録ファイル（写真）をもっており、様々な職業について絵でわかりやすく学んだり、自分のことを探究したり、職業体験に行った記録をファイルに残したりしている。職業選択のためのキャリア教育は、次の①～④のように段階的に設定されている。①自分のポテンシャル（潜在的な力）を知る。②どんな職業があるかを知る。③実際の職場で体験する。④職業学校へ行くのか大学へ行くのかを考える。近年は、10年生のうち3割は職業学校へ進学し、そのうちの40%が大学に進学している。しかし、大学へ行くためには「アビィトゥア」（大学入学資格）をとる必要がある。その他にも、校外各機関や企業とタイアップした職業体験の機会がたくさんある。最近では、生徒自身がインターネットを使って直接実習先を探し、職業体験することも多くなっている。



(5) デュッセルドルフ手工業会議所

手工業会議所とは、ドイツの手工業分野で事業を起す際に必要な資格（マイスター等）の制度を統括し、各職種の職業資格の認定試験を実施する職能団体である。デュッセルドルフ手工業会議所は、デュッセルドルフ市とその近隣自治体を管轄とし、5万9千社余りの事業所が加盟している。原則、事業所を立ち上げようとする者は加盟が必須であり、事業主の利益につながるよう、コンサルティングやセミナー、財政支援や運用計画などについての各種相談や情報提供等の業務を行っている。また、主に義務教育を終了した者を対象とする「初期職業訓練」と、初期職業訓練を終了した者や社会人、求職者等を対象とした「継続職業訓練」等の職業訓練制度が設けられ、その重要な役割も担っている。「初期職業訓練」における手工業会議所の役割は、デュアルシステム（職業学校に通いながら主に事業所で職業訓練を受ける制度）に基づき、各事業所が行っている職業訓練が正しく実施されているかを監督する、中間試験・修了試験を行い、訓練分野の知識や技能が備わっているかをチェックするなどの役割がある。マイスター制度を含む「継続職業訓練」でも同様に、事業所・訓練生に対するアドバイスや資格取得試験の実施、訓練施設・訓練契約・指導員・訓練生に対する評価を行っている。

(6) 研修を終えて

今回の研修を通じて、ドイツの学校等の視察から、教師として大切なことを3つ学んだ。1つ目は、ドイツの複線型教育制度の実態から、工業高校の教師として、できるだけ早期に生徒の能力や適性に合わせてよりよく生きるための道を探っていくこと。2つ目は、デュモン・リンデマン基幹学校の生徒が現場実習の様子を流ちょうに話す姿から、国語科の教師として、「話す力」の指導に重点を置くこと。3つ目は、パリの町が将来をずっと美しくあり続けるための配慮として「高さ制限」をしている点から、生徒の数年後、数十年後の幸せを願って今やるべきことは何かを考えて指導していくこと。今後の教師生活では、これら3つのことを大切に、生徒の本質をとらえながら将来を見据えた指導を心がけていきたい。また、自分の見識を広める研修会等に積極的に参加し、常に向上心をもって、自分自身をさらに磨いていきたい。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださいました富山県教育委員会並びに富山経済同友会の皆様に心より感謝申し上げます。